

30年後の



と社会を

考えよう。

第5回

愛知学長懇話会 サステナビリティ・リレーシンポジウム  
IN 名古屋工業大学

2018.12.15.sat 13:00-17:00

会場：名古屋工業大学 講堂 2階 ラーニングコモンズ  
名古屋市昭和区御器所町

13:00-13:40

開会の挨拶：名古屋工業大学長 鶴飼裕之  
基調講演：名古屋大学教授 竹内恒夫

13:40-15:40

ポスター発表・投票

16:00-17:00

授賞式  
パネルディスカッション  
閉会の挨拶

審査員・パネリスト：(順不同)

愛知県環境部 柘植孝之(水大気環境課長)  
株式会社オルタナ代表取締役 森根(ESD・CSR)  
豊橋技術科学大学講師 山田剛史(水質)  
名古屋工業大学教授 小田亮(人間と社会)  
名古屋工業大学教授 富永晃宏(水循環)

司会進行：

名古屋工業大学教授 秀島栄三  
名古屋工業大学准教授 吉田奈央子

学生グループ発表を  
募集します！

30年後のわが国または国際社会の「水」はどうあるべきか、そのためにこれから10年間どう行動すべきか、学生グループによる発表(小論文とポスター)を募集します。優れた発表は表彰し、続けて審査員によるディスカッションを行います。

詳しい募集要項は裏面をご覧ください。

主催：愛知学長懇話会サステナビリティ企画委員会 共催：名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター・愛知県



# 学生グループ発表 募集要項

30年後すなわち2050年頃のが国または国際社会の「水」はどうあるべきでしょうか。そのためにこれから10年間どう行動すべきでしょうか\*。学生のみなさんがこれまでに思ったこと、感じたこと、あるいは活動や研究の経験から、これらについて考えをまとめ、主張してください！

## 書類審査

- ・応募資格：愛知県内の大学に通う学生・大学院生3人以上のグループとします。
- ・下記の申込事項を記載したメールに1,500字以内の小論文（様式自由）を添付して11/22(木)迄に提出してください。審査して最大8件に絞り、11/25(日)迄に採否をお知らせします。
- ・審査基準：3つの観点から評価します。
  - 論理性（説得力がある内容であること）
  - 具体性（愛知県あるいは国際社会で実現可能性が高そうなこと）
  - 独自性（他のグループにないオリジナルな着眼点あるいは提案であること）
- ・申込事項：①参加者各自の氏名，所属する大学名，学科名 or 専攻名，学年，  
②代表者の氏名，メールアドレス，電話番号，③発表題目，下記に示すキーワード。
- ・以下のキーワードから1つ以上を選び，それらに当てはまる内容としてください。
  - 水環境保全    治水（水防災）    豊かな水資源 水循環
  - 流域圏    飲料としての水    水辺のまちづくり    環境倫理
  - レクリエーション    観光資源
- ・申込先：名工大 秀島 [hideshow.eizo@nitech.ac.jp](mailto:hideshow.eizo@nitech.ac.jp)

## ポスター審査

- ・A1版のポスターを作成し，12/1(土)迄に原稿を電子ファイルで提出，当日12/15(土)にポスターを使って発表してください。持ち時間は発表10分+質疑3分とします。
- ・当日使うポスターは事務局で印刷しますので持参不要です。
- ・審査基準：書類審査と同じ。12/15発表後に審査員(持ち点20点)と会場聴講者(持ち点1点)の採点を集計し，順位を決めます。
- ・全グループに賞状を，最優秀賞1件，優秀賞2件にはさらに賞品(図書券(予定))を授与します。

※SDGs (Sustainable Development Goals, 2030年までの持続開発目標)は，2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として，2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され，地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず，先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり，日本としても積極的に取り組んでいます。(外務省ウェブサイトより一部編集)

・12/15当日の状況を撮影し，ウェブ等で公開する場合があります。予めご了承ください。